

利根川下流見学会

「坂東太郎」と呼ばれる利根川は、群馬県の大水上山を源流として、関東山地・平野のほぼ全体を流域とする、流域面積で日本最大の一級河川です。利根川流域で集められる水は、関東1都6県の重要な水道水源であることはもちろん、農業用水・工業用水としても使われ、我が国の産業を支える重要な資源です。こうした「恵み」を与えてくれる坂東太郎ですが、明治43年や、戦後のカスリーン台風時には、堤防を決壊させて広大に氾濫することで、大きな「災い」をもたらしてきました。このため治水計画の再検討が行なわれ、昭和24年2月、新たな利根川改修改訂工事計画が立てられました。以降、これらの経緯を踏まえた改修計画の見直しと並んで、水門や排水機場の改修・新設、河口堰や河口の導流堤の築造、スーパー堤防の整備など総合的な治水対策を実施してきました。

今回の見学会は、その利根川下流部の川の駅・道の駅水の郷さわら（スーパー堤防）を出発し、利根川河口堰を経て、銚子まで下る見学会を行います。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	令和4年9月17日（土）	7:30 集合・出発
集合場所	JR新小岩駅 東北広場（裏面地図参照）	
参加費	1,000円（資料、交通費、一部として）	
募集人数	35名（先着順）	eizutosikeikaku@outlook.com 携帯 080-4006-8819
行 程	7:00	なぎさニュータウン（なぎさニュータウンにお住まいの方）出発
	7:30	JR新小岩 東北広場 出発（集合次第出発します）
	9:30	横利根閘門ふれあい公園
	10:00	川の駅・道の駅水の郷さわら（スーパー堤防）
	12:30	利根川河口堰管理事務所
	14:00	銚子 ウオッセ21（水産物卸売りセンター）
	17:40	JR新小岩 東北広場
	18:20	なぎさニュータウン

※昼食は各自持参いただくか休憩場所等でご購入いただき、お召し上がりください。

※交通状況により行程及び時間等、変更することがあります。ご理解・ご協力願います。

主催 市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会

佐原広域交流拠点 PFI 事業

～水の駅・道の駅水の郷さわら～

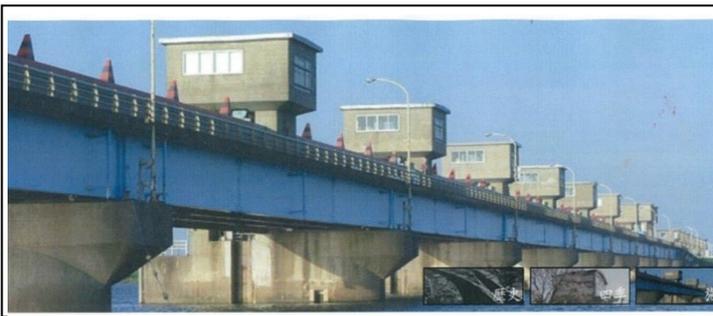
スーパー堤防上に、国と香取市が協働して、水辺交流センターや河川情報発信施設、車両倉庫、佐原河岸、利用ゾーン（川の駅）、地域交流施設（道の駅）を PFI 事業により一体的に設計、建設、維持・管理、運営をしています。

また、国の個別事業として、災害時の水防活動拠点となる河川防災ステーション、緊急船着場などの整備・運営を行っており、千葉県においても国道 356 号線拡幅事業を併せて行なっています。

この事業は国の河川事業で初めて PFI 手法にて整備したもので、施設の維持管理や運営は、2025 年 3 月までの約 15 年間。民間事業者が自己資本で負担し、施設の維持管理・運営、建設などにかかった PFI 事業全体の費用を国や香取市が分割で支払う契約になっています。



利根川河口堰



雨が長期間降らず、利根川の水が濁水（川の水が少なくなる）すると、太平洋の海水が利根川を逆流し、利根川近郊の地域の畑で育てられている農作物や飲み水に大きなダメージをあたえる塩害がおこってしまいます。昭和 33 年におこった異常濁水時では、千葉県分だけでも、その被害額が 4 億円にも達し、大きな社会問題になりました。このような塩害を防ぐために、利根川河口堰は重要な役割を担っています。

利根川流域の 1 都 5 県における生活用水では昭和 35 年から 45 年の 10 年間に 2.44 倍、工業用水では昭和 33 年から 45 年の 12 年間に 4.87 倍にも急増。特に、昭和 39 年の東京オリンピックをひかえた首都圏は、慢性的な水不足に見まわれました。産業の発展と、それともなう人口集中がもたらした水需要の急増に対しても、利根川河口堰は豊かな水をさまざまな方面に供給し、人々の生活に大きく貢献しています。

横利根閘門ふれあい公園

横利根閘門は、利根川と横利根川の合流部に造られた大正 10 年（1921 年）完成のレンガ造りの複式閘門で、国の重要文化財でありながら、今なお現役で稼働しています。千葉県と茨城県の県境にあり、閘門の両側には緑地を生かした「西洋庭園」や「水辺広場」「ピクニック広場」「芝生広場」などが整備されています。水郷地帯が一望できる風光明媚な場所として知られ、桜の名所でもあります。



新小岩駅東北広場案内図



集合場所

JR 新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

